

7月の巡回指導の結果

	交通関係	その他	合計
小学生	11件	1件	12件
	(12人)	(1人)	(13人)
中学生	8件	4件	12件
	(17人)	(9人)	(26人)
高校生	1件	1件	2件
	(2人)	(2人)	(4人)

< 7月の育成指導重点事項 >

- 夏季休業中の児童生徒の校外生活指導や交通安全指導
- 夏祭り及びその前後における児童生徒の校外生活指導
- 万引きその他非行防止のための商店などの巡視
- ※ 交通指導における主な指導内容
 - ・ 自転車乗車時のヘルメット着用と左側乗用について
 - ・ 下校時の右側歩行について
- ※ その他 遅刻・・・理由(朝寝や体調不良)
時間外外出・・・(20:00以降) 中高生 夜間指導時

4月～6月までの育成指導委員報告書から(声かけや指導など)

- ・ 西原2丁目の公園で小学生4人と中学生2人公園でサッカーをしていたので、集まってもらい見回りを行っていることを伝える。自転車で来ていたため、全員にヘルメットをしっかりと着用して帰るように指導した。
- ・ 元気に挨拶をし、交通ルールをきちんと守っている一方、興味本位にブロック塀に乗っている子も見られたので注意の必要性を感じた。
- ・ 片側のみ歩道(左側)がある道路で、右側の歩道のない車道を小学生2人が走っていたので、歩道(左側)を走るように注意した。
- ・ 寿自動車学校の裏側は道路が狭く、そこを広がって登校していることがある。非常に危ないので安全指導をしていきたい。
- ・ ひまわり公園近くの交差点で一旦停止せずに自転車で直進した小学生に、パトロール中だったので注意した。
- ・ 横断歩道でしっかり止まって待っていたが、車道ギリギリまで出ていたので声かけをした。
- ・ 小雨の日に傘は持っているが、傘をささずに下校している児童がいたので「雨に濡れると風邪をひくよ。」と声かけをすると傘をさして下校した。

教育相談室



(件数)

7月の教育相談の状況

学校生活に関すること・・・2
関係機関との連携・・・6

相談場所 リナシティかのや2階福祉プラザ内
月～金 9:00 ～ 16:30
☎ 44-8799 フリー 0120-555-655



不審者情報



日時 : 6月26日(金)午後2時頃 【7月24日(金)に解決】警察からの報告
場所 : 鹿屋市西原2丁目の公園内
内容 : 女子高校生らが談笑中、見知らぬ男から「お姉さんかわいいね。インスタ交換しませんか。」などと声を掛けられました。高校生らがきっぱり断ると男は立ち去りました。
男の特徴 : 25～35歳位、身長165～170cm位、茶色長髪、上衣白色のシャツ、下衣黒色のズボン着用

日時 : 7月6日(月)午後3時頃
場所 : 鹿屋市寿8丁目1番付近の路上
内容 : 小学生女児が下校中、車に乗った男から「アメちゃんいる?おいしいよ。」としつこく声を掛けられました。女児がきっぱりと断り、その場から離れたところ男は車で走り去りました。
男の特徴 : 60歳代、中肉、白髪の短髪、白色の自動車使用

日時 : 7月8日(水)午後5時頃
場所 : 鹿屋市西原2丁目の路上
内容 : 女子中学生が通行中、見知らぬ男から「かわいいね。連絡先交換しませんか。」などと声をかけられました。中学生がきっぱり断ると男はその場から立ち去りました。
男の特徴 : 20～30歳位、身長170cm位、中肉、黒色ボサボサ髪、上衣白系の七分袖シャツ、下衣黒色の長ズボン着用

「人間的成長を支える貴重な教育の場」

鹿屋市立細山田小学校 校長 下村 尚

これまでの勤務校では、高学年を担当する機会が多く、修学旅行や宿泊学習での引率の機会がたくさんありました。宿泊学習は、日常における学校生活や家庭生活では得にくい体験を通して、子供たちの人格形成や社会性の発達を促す貴重な教育活動です。私自身が子供の時や教師になって児童を引率した時、県内の多くの社会教育施設を利用し、多くの貴重な体験をさせていただきました。

今から20年ほど前に在外教育施設に勤務する機会がありました。日本と同じ教科書を使い、日本と同じような授業が日々行われていましたが、当時の勤務校（フランス）でも小学5・6年生で3泊4日の宿泊学習、中学1・2年生が4泊5日の宿泊学習、中学3年生が4泊5日の修学旅行が行われていました。小学生で3泊4日は長いなと感じていましたが、現地フランスの学校では、約1週間の宿泊学習が引率者なしで行われるのが普通だと聞きました。

私が子供の頃の宿泊学習は、集団生活への適応や規律の習得などを重視し、「10分前行動、5分前集合完了」などの言葉がよく聞かれました。また、野外炊飯やテント泊、登山などの自然体験活動を通して仲間と協力することや困難を乗り越えることの大切さなど学ぶ機会となっていました。

近年の宿泊学習は単に集団行動を学ぶだけでなく、一人一人の主体性や多様性を尊重する活動が多くなっています。少子化や地域活動の希薄化、異年齢集団に関わる機会の減少など、時代の変化とともに宿泊学習でも人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成する役割が求められているのかもしれませんが。

前述した在外教育施設での宿泊学習では、施設スタッフが4日間のプログラムを考え、

いくつかのグループに分かれながら活動行っていました。学校側が2名の通訳を雇っていましたが、全てのグループに関わることは現実的には無理で、それでも現地スタッフと児童、引率者は身振り手振りでコミュニケーションを取りながらプログラムを消化して行きました。活動は、屋内でのレクリエーション活動、サイクリング、カヌー、ヨット、炭作り、炭を使ったスケッチ、博物館見学、バードウォッチングなどたくさん計画されていました。夜にはダンスパーティーも企画されており、日本人の団体ということで、現地スタッフがJ-POPを準備して流してくれていました。

情報化社会となり、子供たちはスマホやインターネットを通じた交流には慣れ親しんでいるのかもしれませんが、一方では直接顔を合わせて協力し合う経験が不足していると考えられます。宿泊学習は時代とともに内容や方法は変化していますが、青少年健全育成という根本的な目的は変わっていません。共に生活をして体験活動をすることで、自ら考え行動する力、他者と協力する力、地域の一員としての責任感を育むことは今後ますます大事になっていきます。変化の激しい社会を生きていく子供たちにとって、宿泊学習は人間的成長を支える貴重な教育の場であり続けるだろうと考えます。

